

## 式 辞

厳しい冬の寒さも日増しに和らぎ春の息吹を感じられるようになった今日の佳き日に、大阪府立四條畷高等学校第76回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生はもとより、在校生、教職員一同、この上もない喜びでございます。大阪府教育庁ご代表様をはじめ、公私共にお忙しい中、多くのご来賓のみなさまに、ご臨席を賜りました。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

保護者の皆さま、お子様のご卒業、誠におめでとうございませう。心よりお祝い申し上げます。コロナ禍におけるこの3年間は通常とは異なる様々なご苦労・ご心配があったことと拝察いたします。お子様は、本校での高校生活を通じて、逞しく立派に成長されました。お子様を支え、育ててきたことに対しまして敬意を表しますとともに、これまで本校の教育活動にご協力、ご支援いただきましたことに心より感謝申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与しました351名の76期生の皆さん、卒業おめでとうございませう。皆さんは、3年前、コロナ禍まっただ中で高校受験を迎え、見事難関を突破して本校に入学しました。1年生の時は、臨時休業や緊急事態宣言による部活動の休止、行事の延期など、期待していた畷高での高校生活は十分叶わなかったかもしれません。しかし、2年生になると、ウィズコロナが模索されるなかで、教育活動の制限が大幅に緩和されました。体育祭では、コロナ禍以前の体育祭を生徒の誰一人経験したことがない中でリーダーシップを発揮し、赤団、白団、紫団各団が素晴らしい応援合戦を披露してくれました。「先輩たちが築いてきた伝統を継承し、新たな伝統を創る」という皆さんの熱い思いが伝わってきました。10月の北海道への修学旅行では、初日から「あと3日間しかない」と言ってお暇を惜しんで楽しむ姿、雄大な自然の中でアクティビティや北海道の味覚を満喫する皆さんの笑顔をたくさん見ることができました。そして、迎えた3年生の畷高祭では、早朝から中庭で練習する76期生の多さ、発声練習の声の大きさに最後の畷高祭にかける皆さんの決意を感じました。4年ぶりに外部からの来客を迎えた畷高祭本番は、各クラスの大劇のクオリティの高さ、クラスの一体感、圧巻のパフォーマンスに満員の観

客席が大いに盛り上がりました。「暁高3年間の集大成として、コロナ禍でできなかった分まで仲間と一緒に全力を尽くして楽しむ」。そんな皆さんの姿に、76期生の成長を感じました。暁高の伝統や暁高生の良さが一杯詰まった素晴らしい暁高祭でした。「自主・自律・自由」の精神の下、コロナ禍という逆境を乗り越え、授業や部活動、行事、探究活動に全力で取り組み、「文武両道」を見事に体現した76期生を誇りに思います。

現在、国際社会は、中東やウクライナでの戦争と人道危機、貧困、地球環境問題など、困難な多くの問題に直面しています。日本では、能登半島地震、円安、GDP世界第4位への後退など、縮みゆく日本の前途が案じられています。そして、私たち一人ひとりに目を向ければ、情報化社会の急速な進展のなかで、絶えず時間に追われている日常があります。

詩人の杉山平一さんの詩に『通過』というたった三行の詩があります。

急行に乗って駅を通過するとき  
ベンチに腰かけている人がチラリと見える  
その人をわたしのように思う

この詩は、自分の人生は急行ではなく鈍行列車のようなものと詩っています。一つ一つの駅に止まり、周りの人や景色をよく見て、自分の立ち位置を確認する。そして、大切なことは何かを考える。私自身も、そんな生き方をしたいと思いながら教師を続けてきました。

新しいことを学び続ける。新しい場所を訪ねる。新しい人に出会う。皆さん、そんな自分の時間を大切にしてください。人としての豊かさを大切にしてください。それが、時間に追われる日常の中で時の流れを遅くし、創造的な思考や広い視野を養うことに繋がります。

「ゆっくりと歩む人でも、つねにまっすぐな道をたどるなら、走りながらも道をそれてしまう人よりも、はるかに前進することができる」

17世紀のフランスの哲学者デカルトの言葉です。

76期生の皆さん、鈍行でもいい、自分の信じる道を一步ずつまっすぐに進んでください。私は、皆さんに急行よりも鈍行列車のような生き方を勧めます。

しかし、それでも今後の長い人生の中では、困難に出会いつまづくことがあ

るかもしれません。そんな時は、少し立ち止まって、暁高での3年間を思い出してください。そこには、時には厳しく、時には優しく接して下さった先生方をはじめ、ともに喜び、ともに涙した仲間、温かく見守って下さったご家族など、多くの人たちの励ましや支えがあったはずです。これからも皆さんが全力で頑張っている姿は必ず誰かが見守ってくれています。そして、私たち暁高の教職員はこれからもずっと皆さんの応援団です。76期生の皆さん、どうか自分らしさを大切にしながら、幸せな人生を切り拓いて行ってください。

結びに、皆さんの前途が健康で幸多きものでありますことを心からお祈りして、式辞といたします。

令和6年2月29日

大阪府立四條暁高等学校長 稲葉 剛